

## 植物検疫と放射線 いま、照射に期待？！ ～植物検疫の国際基準と輸出促進に向けた取り組み～

日時：2019年7月5日(金)13:00～15:30

(第56回アイソトープ・放射線研究発表会最終日)

場所：東京大学弥生講堂アネックス セイホクギャラリー

主催：食のコミュニケーション円卓会議

共催：公益社団法人日本アイソトープ協会、日本食品照射研究協議会

参加者：事前登録：25名(内4名欠席)、当日参加：10名、講師：2名、計：33名  
研究発表会参加者、大学・研究機関、教員、学生、食品会社、一般市民など

開会挨拶 食のコミュニケーション円卓会議 代表 市川まりこ氏

会場の皆様、こんにちは。市民のための公開講座、しゃべり場へ、暑い中ようこそおいでくださいました。食のコミュニケーション円卓会議は、2006年に設立した消費者団体です。誰でも職場から家に帰れば一人の消費者という気持ちで様々な背景を持った方々が集っています。一番の特徴は、思込や古い常識に囚われない学びと体験を大事にしていることです。私たちは得られた成果を世の中に向けていろいろな形で発信することで、消費者の利益を損ねている障害を少しでも取り払っていきたくと願っております。

しゃべり場は2010年にスタートして、今年で10回目になります。今回は、植物検疫と放射線というテーマでおこないます。食品照射技術のひとつである、放射線照射による植物検疫処理は、非加熱処理で品質劣化が少ない、環境汚染につながる薬剤も使わない等のメリットが大きいため、薬剤くん蒸処理や温湯浸漬処理の代替法として世界で実用化が急拡大しています。

そもそも「植物検疫」とは何か、各国ではどのような取り組みがなされているのか。講師は、農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官の島田和彦さん、それから農研機構食品研究部門 食品安全研究領域長の等々力節子さんをお招きしております。植物検疫の国際基準、輸出促進に向けた取り組みについても、最新かつ基本的なことも含めて有意義なお話をいただけたらと思っております。後半は、ご講演いただきました方々と会場の皆様を交えての意見交換を予定しております。

講演(1)「植物防疫と技術開発の現状」

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究総務官 島田和彦氏

- 全世界の農地面積の増加が見込めない状況下、食料安全を保障するためには、生産性の飛躍的向上とサプライチェーンを通じたフードロスの削減が必要。
- 植物病害虫のまん延は現在でも食料損失の2～4割の原因であり、人や物のグローバル化が進展する中、国際植物検疫の重要性は増大。
- 植物検疫は完全でなく、病害虫のリスク分析を踏まえ、不断の制度見直し、検疫技術向上が重要。

- 放射線照は農産物の品質低下や化学残留を起こさない有効な措置。一方、照射食品を許可していない国・地域もあり、インフラも未整備。
- 今後、植物防疫を徹底する上では、あらゆる技術を視野に入れ、サプライチェーンが十全に機能するよう研究開発を推進することが必要。

## 講演(2)「世界で急拡大する、照射による検疫処理」

(国研)農研機構 食品研究部門 食品安全研究領域長 等々力節子氏

- 植物検疫処理に放射線照射を利用するための要件について国際基準が整備され、個別の処理基準が継続的に拡充されている。
- 輸出/輸入国間で合意された手続きに沿って、照射施設の認可や処理及び輸送のプロセスが保証され、照射農産物の国際貿易が実現している。
- 国際的な枠組みによる共同研究やワークショップ等が実施され、技術開発と普及に貢献している。多くの国が、戦略的にこれらの国際活動に参加している。
- 低エネルギーX線による新規装置の開発、照射農産物の品質低下防止技術など、自国農産物の輸出機会の拡大にむけて各国で活発な研究開発が実施されている。
- わが国は、過去に切り花を対象に、体系的なデータ収集を行った実績を有する。H30 年度から、国産農産物の輸出に有利な検疫処理基準の確立をめざした農水省の研究事業として照射処理も取り上げられ、研究が実施されている(約 20 年ぶり)。
- 海外情勢の把握と技術の正確な理解に基づき、戦略の策定と国内インフラの整備を！

## 講師と会場を交えた意見交換

司会 食のコミュニケーション円卓会議 代表 市川まりこ氏

植物検疫における有効な措置の一つである放射線照射を日本で利用するために、どうしたらよいか？ という観点から、島田氏と等々力氏に事前にコメントをお願いした。いただいたキーノートから抽出されたキーワードは、以下の4つ。

- ① 制度の見直し(安全性評価と規格・基準の整備)
- ② 事業者(ニーズ)
- ③ 消費者(ニーズ)
- ④ 長期ビジョンと基盤整備

島田氏と等々力氏のお二人がそろってあげられたキーワードが「制度の見直し」だった。まず、これについてお二人に簡単に説明していただき、その後会場の皆さんとの意見交換を行った。

事業者と消費者のニーズや長期ビジョン、インフラ整備については時間切れとなった。次回以降に改めて議論していきたい。

## 【参加者アンケートから抜粋】 回収: 16 枚 (回収率 53%)

### 1. 特に印象的だったことは？

- ・植物検疫の全体像と放射線照射の現状を知ることができた。
- ・最後の討論で、日本で放射線を使った植物検疫を行っていく際の課題が分かったこと。
- ・植物検疫でいろいろ取り組まれていること。一方でまだこの程度なのかと感じたこと。
- ・植物検疫がアメリカ主導になるのかなと思ったこと。
- ・放射線利用は先入観もあり、正直抵抗はあるが、プラスになる放射線の使い方の一つだと思う。安全であることをもっと一般に広げて説明する必要はあると思う。
- ・検疫措置としての放射線処理の目的が、殺虫ではなく増殖させないということ。
- ・放射線照射を行っても、生きている虫がある程度残るということが意外だった。
- ・「殺虫でなく、繁殖しない程度に放射線照射をすればよい」という考え方は、初めて話を聞く人にとっては、分かりにくいことなのだなと思った。
- ・放射線照射導入への障壁は、どのようにしたら取り除けるのか？ 海外実績をマスコミに取り上げて貰い、逆輸入しかないのか？ これらへの指針的な話題提供であった。
- ・照射技術の利用が我が国の検疫で使えるようになると良いと思った。
- ・検疫措置としての食品照射の意味、有効性。参加者の年齢が高まっていること。

### 2. もっと知りたいことは？

- ・照射食品の有利性、素晴らしさ。
- ・食品照射をいかに進めるか？ \* 政治 \* マスコミ対策 \* 情報の発信
- ・一般消費者の理解を得るために、どのように進めていくのかということ。
- ・放射線照射の概略と具体的な実施方法については説明されたが、放射線照射そのものの説明をもっとつっこんでほしい。
- ・日本での安全性評価の現状。
- ・G20 のような場での話題としては、小さいのか？ 世界が参加する会議は、どのレベルか？ Concept paper が進展することを期待。
- ・植物防疫について。放射線を使う理由について(具体的に)。

### 3. 本日のご感想をお聞かせ下さい

- ・初めて知る内容がとても多く、勉強になった。有意義な時間だった。(同様の感想多数)
- ・レバ刺しを食べたいなどの個人の嗜好的視点で食品照射を実現するのではなく、フードロスの改善と合わせて食料の届かない子供達への食品供給等、世界的規模から必要性を説く方策はないかと感じた。
- ・検疫の意義と食品の安全の境界の難しさを感じた。韓国への輸出で、WTO での敗訴の不思議さを感じる。
- ・「検疫」と放射線に関し、国際的に進んでいるところと国内情勢が遅れているところが、よくわかった。
- ・来年も楽しみにしています。
- ・第 10 回にとどまらず、継続してほしい。
- ・大変興味深かった。しゃべり場が 10 回目となり、記念すべき内容でした。今までの 10 回をまとめて発信してください。期待しています。

以上